

会議等名	平成 22 年度 第 2 回海老名市外部評価委員会
日 時	平成 22 年 8 月 6 日 (金) 13 : 30 ~ 15 : 45
場 所	3 F 政策審議室
出席者	委員 11 名 (欠席 1 名) 事務局 4 名 (市長室次長、市長室参事兼政策経営課長、主査、主事) 傍聴人なし

< 会議進行：柳田参事兼課長 >

1 開 会 【柳田参事兼課長】

- 外部評価委員の皆様におかれましては、大変ご多忙の中、行政評価スケジュールのもと、7月上旬から3グループに分かれ、外部評価の対象事業となる49の主要事業について、評価作業にお時間を割いていただき、大変なご尽力をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

2 海老名市外部評価委員会委員長あいさつ

- 本日は、お暑い中お集まりいただきまして、大変ご苦勞様です。
- 7月上旬から、3グループに分かれて、平成21年度に実施された49の主要事業について、熱心な評価の審議を尽くしていただいたことと思います。この間も、とても暑い中での作業であったかと思いますが、お忙しい時分にもかかわらず、委員の皆様のご理解とご協力をいただきましたおかげで、本日、3グループの各事業の評価及び意見内容を揃えることができました。
- 委員皆様のご尽力に大変感謝しております。
- 本日は、各グループ評価の結果について、「平成22年度外部評価の確定・総括」ということで議題に挙がっておりますので、この場で他のグループの評価等についても意見していただき、外部評価委員会としての最終的な評価にまとめていこうと考えておりますので、皆さんの積極的なご審議をお願いいたします。

3 議 題 【議長：海老名市外部評価委員会委員長】

(1) 平成 22 年度外部評価 (平成 21 年度実施計画事業対象) の確定・総括

説明：柳田参事兼課長 … 平成 22 年度外部評価に係る実施概要の説明

：島津主事 … 「平成 22 年度 外部評価結果記入シート (全グループ分)」を
基に、①各評価の方向性について、少なくとも1評価が異なる
事業 (網掛けされた事業)、②各グループ内で特にご意見等の
多かった事業を中心に説明

< 補 足 >

- 「内部評価」について、7月26日に開催された行財政改革推進委員会において、評価結果が一部修正された。「平成22年度 外部評価結果記入シート(全グループ分)」の「内部評価」については、修正後の評価結果を記載している。

⇒ 「高齢者生きがいづくり事業(事務事業コード:111402)」及び「介護予防健康増進施策事業(事務事業コード:111405)」について、当初は担当部課評価(現状継続)の結果に対し、内部評価と外部評価は「事業統合」との方向性を出していた。

しかし、先の行財政改革推進委員会において、内部評価の方向性が「事業統合」から「現状継続」(現状の事業を継続して行く中で、事業の効率性を上げるため、内容に応じ一部統合も視野に入れた事業内容の整理が必要と判断)に変更された。

⇒ 当該2事業の内部評価の修正を受け、外部評価の方向性を「事業統合」から変更するか否かについて、本日の委員会で併せてご審議いただきたい。

- 「平成22年度 外部評価結果記入シート(全グループ分)」上の網掛けされている事業は、担当部課評価・内部評価・外部評価の各評価結果のうち、少なくとも1評価の方向性が異なっている事業を示している。

< 例1 > 「北分署の建設(事務事業コード:432702)」(網掛け事業)

担当部課評価・・・現状継続	} 外部評価の方向性のみ異なっている。
内部評価・・・現状継続	
外部評価・・・事業完了	

< 例2 > 「歴史資料収蔵館の改修・維持管理事業(事務事業コード:223302)」

担当部課評価・・・見直し拡大	} 担当部課評価の方向性のみ異なっている。
内部評価・・・現状継続	
外部評価・・・現状継続	

- 「平成22年度 外部評価結果記入シート」に記載している「外部評価コメント」の内容は、行政評価システムで出力される「事務事業評価シート1」の【評価コメント・評価結果】にある「外部評価(今後の方向性等)」の欄に記載される内容である。

したがって、「平成22年度 外部評価結果記入シート」にあるコメント枠幅を拡大することができず、各事業の「外部評価コメント」は、あくまでもこのコメント枠幅に収まる内容で整理していることをご理解いただきたい。

- 本日の会議では配布していないが、現在、「平成22年度 外部評価結果記入シート」とは別に「(仮称)平成22年度 外部評価結果意見集」というものを作成している。

外部評価における、実際のグループ別評価会議の中では、「平成22年度 外部評価結果記入シート」にあるコメント枠では収まり切らないほどの重要かつ建設的な意見を各事業に対していただいた。これら「外部評価の意見」を重要性や優先性等を勘案しながら精査し、外部評価を行った各委員の意とする評価の真意が、事業を所管する担当部課にしっかり伝わるような内容・様式でグループ別に整理したものが「(仮称)平成22年度 外部評価結果意見集」である。

< 結 論 >

- 「平成 22 年度 外部評価結果記入シート」上の C グループの評価結果で、「【No.14】土地区画整理事業の推進（事務事業コード：421604）」に係る「外部評価コメント」内の文言等を一部修正する。
（「…予算事業対比出来、…」【前】⇒「…予算事業との対比ができて、…」【後】）
- 「平成 22 年度 外部評価結果記入シート」の項目名である「外部評価コメント」の表記を「外部評価」に修正する。
- 本委員会終了後に、「平成 22 年度 外部評価結果記入シート」のコメント内容を各グループで再確認し、必要に応じて、行政評価システム（I T 版）における機械上の字数制限を意識しながら、各グループで必要最小限の内容修正を行う。
 - ・ A グループ：本委員会終了後にコメント内容を再確認・修正し、当日完了
 - ・ B グループ：後日に元データをメール・郵送で送付し、再確認をいただく。
※ 元データの再確認から修正等の返信までの期間は一週間ほど設定
 - ・ C グループ：グループ内で事前にコメント内容を再確認し、修正は対応済
- 後日、「(仮称)平成 22 年度 外部評価結果意見集」の原案をグループ別にメール・郵送で委員各位に送付し、原案内容の確認及び修正等の対応を依頼する。
※ 原案内容の確認から修正等の返信までの期間は一週間ほどで設定

< 意 見 >

委 員： 「平成 22 年度 外部評価結果記入シート」の項目名として、「外部評価コメント」とすると、コメントの主旨が「今後の方向性」（見直し拡大、現状継続など）に向けて述べた内容という印象が強くなる。

しかし、このコメントは、各事業の実施結果に対して今後どうすべきかを述べた「外部評価そのもの」であることから、項目名を「外部評価コメント」とせず、「外部評価」としてはどうか。（修正採用）

副委員長： 外部評価全般の改善期に来ていると思われるが、機械的あるいは時間的な関係ですぐには改善できない部分があるのも事実なので、外部評価全般の改善については、来年度以降の外部評価のやり方・進め方として、また別の機会で議論することとして、今年度については、外部評価結果報告書とは別に「(仮称)平成 22 年度 外部評価結果意見集」を作成することを前提に、事務局が提案する外部評価結果の取りまとめ方で賛成である。

⇒ 「平成 22 年度外部評価結果報告書」と「(仮称)平成 22 年度 外部評価結果意見集」による外部評価結果の取りまとめが決定（全会一致）

(2) 平成 22 年度外部評価結果報告書について

説明：島津主事 … 外部評価結果報告書の主旨となる、①資料「はじめに」(原案)、
②資料「外部評価全般に係る総括意見」(原案)を基に説明

< 補 足 >

- 資料「はじめに」(原案)は、外部評価結果報告書の冒頭に来る「委員 12 名の平成 22 年度外部評価に係る総論」として作成したものである。一方、資料「外部評価全般に係る総括意見」(原案)は、外部評価委員会が 49 の主要事業に対して個別に評価・指摘を行った中で、個々の評価・指摘に共通している課題等や、外部評価の活動全体を通じて特に強く感じられたことを総括意見として整理したものである。
⇒ どちらの資料も、外部評価結果報告書の主旨となる重要な内容である。
- 「49 の主要事業に対する外部評価の結果」と併せ、当該の資料「はじめに」及び資料「外部評価全般に係る総括意見」の内容が、修正等を経て最終確定された段階で、これらの内容を基本に「平成 22 年度の外部評価結果報告書」を作成する予定である。
- 「平成 22 年度外部評価結果報告書」の内容については、資料「はじめに」の内容を外部評価結果報告書の冒頭に置き、①外部評価の実施概要、②外部評価対象事業別の担当部課評価、内部評価及び外部評価の結果一覧、③当会議で審議いただいた資料「外部評価全般に係る総括意見」で構成していくことを考えている。

< 結 論 >

- 本委員会で委員各位から出された「修正意見」を踏まえ、資料「はじめに」(原案)及び資料「外部評価全般に係る総括意見」(原案)に対し修正を行い、両資料の修正が完了し次第、両修正案をメール・郵送で委員各位に送付し、修正案の内容確認及び再修正等の対応を依頼する。
※ 修正案の内容確認から再修正等の返信までの期間は一週間ほどで設定
- 行政評価システムの見直し・改善等に向けた参考とするため、IT 版行政評価システムの導入状況について、川崎市や横須賀市を含む近隣自治体を対象に調査を行い、次回の外部評価委員会で調査結果を報告する。

< 修正意見 >

□ 資料「はじめに」(原案)について

委員： 3行目の「…市民及び学識経験者等で構成される…」の表現に違和感がある。現在の海老名市外部評価委員会は、委員全員が市民であることから、わざわざ「市民及び学識経験者」という分けにする必要はないと思う。

委員長： 今年度の外部評価の特徴でもある、担当部課へのヒアリングも積極的に交えながら評価作業を行ったという実績を勘案し、6行目「…必要に応じ担当部課へのヒアリングも交えながら…」内の「必要に応じ」という表現は除いてもよいと思う。

委員長： 現在の海老名市外部評価委員会委員は全員が「市民」であり、外部評価そのものが市民の感覚に沿う第三者的評価となっていることから、8行目の「…市民の感覚に沿った…」という表現は除いてもよいと思う。

委員： 市の財政事情だけに視点を置いて外部評価を行ったのではなく、市民の代表として、当該事業が市民のニーズや社会経済情勢に適ったものであるのかという視点を第一にして外部評価を行っている。したがって、今年度の外部評価の視点を述べている9行目の「①、②」を「②、③」と変更し、「市民ニーズや社会経済情勢に適った事業となっているのか」という表現を第一の評価視点とした意味で「①」として文言に追加してはどうか。

委員長： 24行目での「最後になりましたが、…改めて感謝を申し上げます。」の表現について様々な意見はあるが、市長に委嘱された委員として、外部評価の結果を最終的に「市長」へ報告することも勘案し、業務多忙の中、ヒアリングに対応いただいた市職員の協力に対する感謝を市長へ伝える意味で、この文言はそのままよいと思う。

□ 資料「外部評価全般に係る総括意見」(原案)について

委員： 記載内容をより整理して箇条書きにした方が、報告書を見る側には理解されやすいと思う。

委員： 意見内容に関連する事業名を示したり、改善の検討を図る上での観点や方法等を例示したりする等、全体的にもう少し「具体的な例」を意見内容に盛り込んでどうか。

委員： 市に対する総括的な意見として、検討や見直し等の反省すべき点ばかりを指摘するのではなく、市の取組み・成果を高く評価する内容も積極的に盛り込んではどうか。

委員： 「④ 評価シートの内容について」で記載されている「市民サービスにつながる市としての成果や努力等を市民にわかりやすく、もっと積極的にアピールすべき」との内容は、総括意見の中でも重要な指摘の一つなので、総括意見の冒頭に盛り込んで、さらに強調させた方がよいのではないか。

委員： 「④ 評価シートの内容について」で指摘している「評価シート自体のフォーマットの改善」について、IT版行政評価システムのリース期間が満了することと絡めながら、「フォーマットの改善」もっと鮮明に打出すような文章表現にした方がよいのではないか。

【 文章表現例 】

- ・ 今年度でIT版行政評価システムのリース期間が満了となり、大幅な改善を図るべき時期が来ています。このことから、評価システム全般に係るこれまでの反省を踏まえながら、市民にわかりやすい評価シートとなるよう、しっかりフォーマットを改善するべきだと思います。

委員： 市が実施した事業について自ら振り返るという「事業成果の分析と検証を行う意識」が、市職員全体に浸透し切れていないことも行政評価全般における大きな課題の一つと考えられる。そこで、「③ コスト削減について」と「④ 評価シートの内容について」の間に、総括意見の追加項目として、成果の分析と検証の考え方を職員一人ひとりが意識して、事業を効果的に推進していくことの必要性を示唆する総括意見を盛り込んだ方がよいのではないか。

委員： ①から④の表題及び文章について、項目ごとに挙げた意見の主旨が外部評価結果報告書を見る側へ容易に伝わるよう、結論的な要素を含んだ表現や構成に修正した方がよいのではないか。

【 表題修正例 】

- 「評価結果について」
⇒ 「行政内部の評価（担当部課評価、内部評価）の更なる充実を」
- 「事業内容の見直し・整理について」
⇒ 「事業内容の明確な整理・見直しによる事業推進の効率化を」
- 「コスト削減について」
⇒ 「市職員の隅々にまでコスト意識の徹底化を」
- 「評価シートの内容について」
⇒ 「事業の実質に即した評価シートのフォーマット改善を」

< 議題全般の意見等 >

委員質問：今年度の外部評価委員会結果に係る市長報告会も含め、今後の委員会の開催や事務のスケジュールはどのように考えているのか。

事務局回答：当面のスケジュールや対応等も含めて、早急に事務局内部で調整させていただきたい。次回の委員会については開催日が確定し次第、委員各位に通知する。また、外部評価結果報告書や意見集等に関連する原案・修正案が出来上がり次第、メール・郵送で委員各位に資料を送付し、次回委員会の開催前に内容確認できるよう、事務を進めていく方向で考えている。

委員質問：今回の外部評価結果の反映状況に係るフィードバックをどうするのか。

事務局回答：評価結果の反映状況というのは、すぐに反映結果が出て示せるものでもないので、確定した情報として反映の状況をお伝えできるよう、来年度の第1回外部評価委員会等で委員の皆さんにご報告できればと考えている。

意見：行政評価システムの見直し・改善を図る上での参考とするため、IT版行政評価システムの導入状況について、川崎市や横須賀市を含めた近隣の自治体を調べてみてはどうか。（調査を行い、次回の委員会で結果報告）

=====

≪ 付 録 ≫ - グループ別評価会議を経ての感想等の発表内容

3 議題

(1) 平成22年度外部評価（平成21年度実施計画事業対象）の確定・総括

< グループ別評価会議を経ての感想等の発表 >

※ グループ別評価会議を実施しての感想や、評価結果の中で特に注視しておくべき内容等について、各グループリーダーを中心に発表（B ⇒ C ⇒ Aの順で発表）

【 Aグループの主な発表内容 】

□ 活動指標（アウトプット）・成果指標（アウトカム）の設定について、数値のみで表現するのが困難な事業もあることは事実で、実際に指標の設定がされていない評価シートもいくつか見受けられた。

原因として、職員が指標設定の必要性やその方法をあまり理解していないということもあるが、評価シート自体が事業の実質に即したフォーマットになっていないということも大きな原因として考えられる。

⇒ 今年度で行政評価システム（IT版）のリース期間が満了となることと併せて、評価シートのフォーマットを大幅に改善すべきである。

【 Bグループの主な発表内容 】

- 担当部課評価及び内部評価と異なる方向性の事業が、他のグループに比べて多いとのことだが、あくまでも「外部評価コメント」に記した評価主旨に近い方向性を選択した結果であって、むしろ、外部評価は「今後の方向性」（見直し拡大、現状継続等）の選択よりも「外部評価コメント」で示す内容を重視して評価を行った。
- 例えば、「現状継続」とした事業について、「これまでと同様の内容で現状のままに事業を継続していくべき」と意味合いで方向付けしたものもあるが、大部分の事業は、「市の事業として継続していく必要はあるものの、事業の内容（質）を改善した上で、当該事業を継続していくべき」との、改善を前提とした事業継続というニュアンスで、結果的に「現状継続」の方向性を選択している。
 - ※ 「今後の方向性」の選択肢に、改善を前提とした事業継続という主旨に合致する（「【仮称】見直し継続」のような）ものがないため、「現状継続」を選択して、「改善を前提とした事業の継続」という主旨をコメントに付けている。
 - ⇒ リース期間の満了に伴うIT版行政評価システムの見直しの際には、『今後の方向性』の選択肢も改善項目として対応すべきである。

【 Cグループの主な発表内容 】

- すべての事業が担当部課評価及び内部評価と同様の方向性（現状継続）であるが、行政内部の評価を支持して、「現状継続」との方向性を示したのではない。
 - 「今後の方向性」（見直し拡大、現状継続等）の選択よりも「外部評価コメント」で示す内容を重視し、「外部評価コメント」に記した評価の主旨に近い方向性を選択した結果、外部評価においても「現状継続」の方向性となった。
- 外部評価の結果に対するフィードバックができるだけ担当部課から図られるよう、具体的な改善手法や検討の時期等を盛り込むことを意識して、外部評価のコメントを作成している。
- 事業目標に対する成果等を把握するために必要な指標（アウトカム）が設定されていない事業が多く見受けられたことから、成果指標の必要性や設定方法等について、多くの職員がまだ理解していない現状が想像された。
 - ⇒ 事業に対する職員の意識改革を、今後さらに進めていく必要がある。
- 「事務事業評価シート2」に記載されていたコスト内容について、事業費が予算額を上回っている事業がいくつか見受けられた。しかし、これらの事業は、補正予算が組まれていたり、翌年度に繰り越されたりした事業で、そういった事実が担当部署へヒアリングをしないとわからないという現状があった。
 - ⇒ 行政評価の方法として、この点についても改善項目として対応すべきである。

